

2023 メディカル柔道整復学科シラバス

R5年度

■授業科目	外傷の保存療法		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	儀間
単位	1単位	時間	15時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔整師として、患者の特徴を知り、「なぜ、そこの手技療法が必要か」を説明することができる。①上肢・下肢の起始停止作用を述べることができる。②上肢・下肢の起始停止を理解した上で手技療法を身に付けることができる。③患者の基礎的状態や体力、機能、環境について知ることができます。		
授業内容	① 手技療法においての心得 ② 手技療法においての心得 ③ 下肢の筋肉（中殿筋・ハムストリングス・内転筋群の起始停止作用） ④ 下肢の筋肉（中殿筋・ハムストリングス・内転筋群の起始停止作用） ⑤ 下肢の筋肉（下腿三頭筋・前脛骨筋の起始停止作用） ⑥ 上肢の手技（講義②③の復習） ⑦ 下肢の手技（講義③④の復習） ⑧ 手技療法実技試験		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編(改訂第7版)・解剖学(改訂第2版) 【参考文献】 プロメテウス(第3版)		
授業方法	講義、実技		
評価方法	筆記試験(45%)、実技試験(45%)、レポート提出(10%)などで総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間		

R5年度

■授業科目	基礎柔道整復学Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	実務者経験有無	有
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師の業務についてと骨折の総論について理解する。		
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 分類① ④ 分類① ⑤ 分類② ⑥ 分類③ ⑦ 分類④ ⑧ 骨折の症状 ⑨ 骨折の合併症 ⑩ 骨折の合併症 ⑪ 小児骨折 ⑫ 高齢者骨折 ⑬ 骨折の治癒 ⑭ 骨折の治癒		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編実技編 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	柔道整復師の根幹となる講義であるため日頃から復習を行うこと。		
担当教員(分担者)	金城		

R5年度

■授業科目	基礎柔道整復学Ⅱ		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	金城
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	各損傷における固定法や後療法について総論的な理解を深める。		
授業内容	① 評価① ② 評価① ③ 評価④ ④ 評価④ ⑤ 骨折の整復法 ⑥ 骨折の整復法 ⑦ 小テスト ⑧ 脱臼の整復 ⑨ 軟部組織処置 ⑩ 固定法 ⑪ 後療法 ⑫ 小テスト ⑬ 指導管理 ⑭ 指導管理		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編実技編 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・小テスト		
履修アドバイス	固定法や後療法の総論のためイメージできるように日々学習に取り組むこと。小テストは評価に入れるのでしっかり復習するように。		
担当教員(分担者)	金城		

R5年度

■授業科目		基礎柔道整復学Ⅲ		
		実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	瀬戸口	
単位	1単位	時間	30時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
授業の目標	①関節周囲の解剖について理解する。②軟部組織損傷の基礎的な知識を習得し、2年生での各論に結びつけるようになる。③脱臼について基礎的な知識を習得し、2年生での各論に結びつけるようになる。			
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 関節損傷 ④ 関節損傷 ⑤ 関節周辺部の損傷 ⑥ 脱臼の分類 ⑦ 脱臼の分類 ⑧ 脱臼の症状 ⑨ 脱臼の合併症・整復障害 ⑩ 筋の解剖 ⑪ 筋損傷の分類 ⑫ 腱損傷の分類 ⑬ 腱損傷の分類 ⑭ 神経の解剖・損傷分類			
教科書 参考文献	【教科書】 南江堂 柔道整復学 理論編 【参考文献】 プロメテウス解剖学アトラス			
授業方法	講義			
評価方法	小テスト・定期試験			
履修アドバイス	脱臼、軟部組織損傷に対する基礎として重要であることを意識して臨むこと。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目	応用柔道整復学（上肢Ⅰ）		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	金城
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	上肢骨折において症状・整復法・固定法・後療法まで総合的に理解する。そして鑑別診断がしっかりとできるようにし、柔道整復師の業務範囲を適切に判断できるようにする。		
授業内容	① 骨折総論復習 ② 骨折総論復習 ③ 肩甲骨骨折 ④ 肩甲骨骨折 ⑤ 上腕骨近位端骨折① ⑥ 上腕骨近位端骨折② ⑦ 上腕骨骨幹部骨折① ⑧ 上腕骨骨幹部骨折② ⑨ 上腕骨遠位端骨折① ⑩ 上腕骨遠位端骨折② ⑪ 上腕骨遠位端骨折③ ⑫ 桡骨近位端骨折 ⑬ 肘頭骨折 ⑭ まとめ①		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編(改訂第6版)・実技編(改訂2版) 南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する		
履修アドバイス	事前に講義をする骨の解剖や、柔整理論(総論)をしっかりと復習し講義へのぞむ事。積極的に質問してください。		
担当教員(分担者)	金城		

R5年度

■授業科目		応用柔道整復学（上肢Ⅱ）		
		実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員		儀間
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	肩甲帯から手指までの脱臼の診断法・鑑別診断・整復法・固定法・後療法を学ぶ。特に「肩鎖関節・肩関節・肘関節・肘内障」については3年次の実技試験項目であるため整復法、固定法の説明ができる。			
授業内容	① 肩鎖関節脱臼 ② 肩鎖関節脱臼 ③ 肩関節脱臼② ④ 肩関節脱臼② ⑤ 肩関節脱臼③ ⑥ 肘関節脱臼① ⑦ 肘関節脱臼② ⑧ 肘内障・橈骨脱臼 ⑨ 手関節脱臼 ⑩ 手根骨脱臼 ⑪ 指節関節脱臼① ⑫ 指節関節脱臼② ⑬ 講義①～⑦までのレポート範囲を口頭試問 ⑭ 講義⑧～⑫までのレポート範囲を口頭試問			
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第2版） 【参考文献】 プロメテウス（第3版）			
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+iPad+penを活用）→講義終了前に復習→講義内容の課題提出			
評価方法	定期試験（70%）、講義レポート提出（30%）などで総合的に評価する。			
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。			
担当教員(分担者)	儀間			

R5年度

■授業科目	応用柔道整復学（上肢Ⅲ）		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	金城
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	上肢骨折において症状・整復法・固定法・後療法まで総合的に理解する。そして鑑別診断がしっかりとできるようにし、柔道整復師の業務範囲を適切に判断できるようにする。		
授業内容	① 前腕骨骨幹部骨折① ② 前腕骨骨幹部骨折① ③ 前腕骨遠位端部骨折① ④ 前腕骨遠位端部骨折① ⑤ 前腕骨遠位端部骨折② ⑥ 前腕骨遠位端部骨折③ ⑦ 舟状骨骨折 ⑧ 月状骨骨折 ⑨ 中手骨骨折① ⑩ 中手骨骨折② ⑪ 基節骨骨折 ⑫ 中節骨骨折 ⑬ 末節骨骨折 ⑭ まとめ①		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編(改訂第6版)・実技編(改訂2版) 南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する		
履修アドバイス	事前に講義をする骨の解剖や、柔整理論(総論)をしっかりと復習し講義へのぞむ事。積極的に質問してください。		
担当教員(分担者)	金城		

R5年度

応用柔道整復学（上肢Ⅳ）			
■授業科目	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	儀間
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	肩甲帯から手指までの軟損の検査法・鑑別診断・固定法・後療法を学ぶ。特に「腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷」については3年次の実技試験項目であるため検査法の説明ができる。		
授業内容	① 肩の軟部組織損傷① ② 肩の軟部組織損傷① ③ 肩の軟部組織損傷④ ④ 肩の軟部組織損傷④ ⑤ 肘の軟部組織損傷① ⑥ 肘の軟部組織損傷② ⑦ 前腕部の軟部組織損傷・神経損傷① ⑧ 前腕部の軟部組織損傷・神経損傷① ⑨ 手部の軟部組織損傷① ⑩ 手部の軟部組織損傷② ⑪ 手部の軟部組織損傷③ ⑫ 手部の変形 ⑬ 講義①～⑥までのレポート範囲を口頭試問 ⑭ 講義⑦～⑫までのレポート範囲を口頭試問		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第6版） 【参考文献】 プロメテウス（第3版）		
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+iPad+penを活用）➡講義終了前に復習➡講義内容の課題提出		
評価方法	定期試験（70%）、講義レポート提出（30%）などで総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間		

R5年度

■授業科目	応用柔道整復学（下肢Ⅰ）		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①解剖学的特徴を理解する。②下肢の骨折について、発生機序や症状などから損傷を判断できる能力を身につける。③固定方法や後療法について適切に判断できる知識を身につける。		
授業内容	① 骨盤骨骨折 ② 骨盤骨骨折 ③ 大腿骨骨折 ④ 大腿骨骨折 ⑤ 大腿骨骨折 ⑥ 大腿骨骨折 ⑦ 大腿骨骨折 ⑧ 膝蓋骨骨折 ⑨ 下腿骨骨折 ⑩ 下腿骨骨折 ⑪ 下腿骨骨折 ⑫ 足・足指骨骨折 ⑬ 足・足指骨骨折 ⑭ 足・足指骨骨折		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編(改訂第5版)・実技編南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	講義の小テスト及び期末テストで総合的に評価する		
履修アドバイス	下肢の骨折をイメージできるよう下肢の解剖学をきちんと理解すること。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目	応用柔道整復学（下肢Ⅱ）		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	儀間
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	下肢のスポーツ外傷、障害の特徴等を理解する。		
授業内容	① 弹発股 ② 弹発股 ③ 脛骨粗面骨端症 ④ 脛骨粗面骨端症 ⑤ 腸脛靭帯炎 ⑥ 過労性脛部痛 ⑦ 足関節外側靭帯損傷① ⑧ 足関節外側靭帯損傷① ⑨ 衝突性外骨腫 ⑩ 有痛性外脛骨 ⑪ 有痛性三角骨 ⑫ 跟骨骨端症 ⑬ 足底腱膜炎 ⑭ 外反母趾		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第6版） 【参考文献】 プロメテウス（第3版）		
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+iPad+penを活用）→講義終了前に復習→講義内容の課題提出		
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間		

R5年度

■授業科目		応用柔道整復学（下肢Ⅱ）				
		実務者経験有無	有			
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員		儀間		
単位	1単位	時間	30時間			
科目区分	専門分野	必選区分	必修			
授業の目標	下肢のスポーツ外傷、障害の特徴等を理解する。					
授業内容	① 弹発股 ② 弹発股 ③ 胫骨粗面骨端症 ④ 胫骨粗面骨端症 ⑤ 腸脛靭帯炎 ⑥ 過労性脛部痛 ⑦ 足関節外側靭帯損傷① ⑧ 足関節外側靭帯損傷① ⑨ 衝突性外骨腫 ⑩ 有痛性外脛骨 ⑪ 有痛性三角骨 ⑫ 跟骨骨端症 ⑬ 足底腱膜炎 ⑭ 外反母趾					
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第6版） 【参考文献】 プロメテウス（第3版）					
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+iPad+penを活用）→講義終了前に復習→講義内容の課題提出					
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する					
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。					
担当教員(分担者)	儀間					

R5年度

■授業科目	応用柔道整復学（下肢Ⅲ）		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①解剖学的特徴を理解する。②下肢の脱臼・軟部組織損傷について、発生機序や症状などから損傷を判断できる能力を身につける。③固定方法や後療法について適切に判断できる知識を身につける。		
授業内容	① 股関節脱臼① ② 股関節脱臼① ③ 膝関節脱臼、足部の脱臼 ④ 膝関節脱臼、足部の脱臼 ⑤ 股関節部軟部組織損傷① ⑥ 股関節部軟部組織損傷② ⑦ 股関節部軟部組織損傷③ ⑧ 大腿部軟部組織損傷 ⑨ 膝関節部軟部組織損傷① ⑩ 膝関節部軟部組織損傷② ⑪ 膝関節部軟部組織損傷③ ⑫ 下腿部軟部組織損傷① ⑬ 下腿部軟部組織損傷② ⑭ 足部軟部組織損傷①		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編(改訂第6版) 南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・小テスト等		
履修アドバイス	各損傷の各論になるため解剖学的な知識が必要となる。講義では解剖学的なイメージを付けるため別冊の解剖書を毎回持ってくるように。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目		応用柔道整復学（頭部・体幹）				
		実務者経験有無	有			
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	金城			
単位	1単位	時間	30時間			
科目区分	専門分野	必選区分	必修			
授業の目標	頭部・体幹部の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、柔道整復師の業を成す上で基盤となる外傷、障害の理論を理解し、適切な対応をするための基礎的・臨床的事項を習得する。					
授業内容	① 頭部の解剖 頭部冠骨折 頭部底骨折 ② 頭部の解剖 頭部冠骨折 頭部底骨折 ③ 顎関節捻挫 顎関節症 ④ 顎関節捻挫 顎関節症 ⑤ 胸郭 肋骨骨折 ⑥ 胸骨骨折 頭部・胸郭損傷復習 ⑦ 脊椎の解剖 頸椎の骨折（ジェファーソン骨折） ⑧ 頸椎骨折および胸椎骨折 脊椎脱臼 ⑨ 鞭打ち損傷 外傷性腕神経叢麻痺等 ⑩ 斜頸・頸椎椎間板ヘルニア・OPLL・先天性奇形 ⑪ 胸郭出口症候群 副神経麻痺 ⑫ 脊椎分離症 すべり症 腰部脊柱管狭窄 ⑬ 腰椎椎間板ヘルニア 破壊性病変 肿瘍 ⑭ 腰椎の骨折・胸背部・腰部の軟部組織損傷					
教科書 参考文献	【教科書】 「柔道整復学・理論編 (改訂第6版)」南江堂 【参考文献】					
授業方法	講義					
評価方法	期末試験の成績、中間試験（授業内）、学習態度、授業内レポート、出席数等を総合的に					
履修アドバイス	頭部・体幹の骨折は合併症や後遺症を残しやすいことを理解し、取り扱う際の危機管理を十分に理解するように。					
担当教員(分担者)	金城					

R5年度

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅰ				
		実務者経験有無	有			
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員		儀間		
単位	1単位	時間	30時間			
科目区分	専門分野	必選区分	必修			
授業の目標	柔道整復学の応用に対応していく為に基礎的な知識をしっかりと学ぶ。①骨折・脱臼、関節構成組織損傷の基礎力を口頭で説明できる。②応用問題の解く力を身につける事ができる。					
授業内容	① 骨の損傷（骨折の分類） ② 骨の損傷（骨折の分類） ③ " (骨折の合併症②) ④ " (骨折の合併症②) ⑤ " (小児骨折) ⑥ " (高齢者骨折) ⑦ " (骨折の治癒経過・骨折の治癒に影響を与える因子) ⑧ 関節の損傷（脱臼の分類） ⑨ " (脱臼の症状) ⑩ " (脱臼の整復障害) ⑪ " (関節構成組織損傷) ⑫ 末梢神経の損傷（神経損傷の分類） ⑬ " (神経損傷の症状) ⑭ " (神経損傷の治癒過程)					
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第6版） 【参考文献】					
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+iPad+penを活用）→講義終了前に復習→講義内容の課題提出					
評価方法	定期試験（70%）、講義レポート提出（30%）などで総合的に評価する。					
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。					
担当教員(分担者)	儀間					

R5年度

■授業科目		臨床柔道整復学 II	
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	金城
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	上肢骨折の知識を深めることはもちろん、国家試験においても出題頻度が高いことから、これらについては特に詳細に学び理解する		
授業内容	① 鎖骨・肩甲骨骨折① ② 鎖骨・肩甲骨骨折① ③ 上腕骨骨折② ④ 上腕骨骨折② ⑤ 上腕骨骨折③ ⑥ 前腕骨骨折① ⑦ 前腕骨骨折② ⑧ 前腕骨骨折③ ⑨ 手根骨骨折① ⑩ 手根骨骨折② ⑪ 手、手指の骨折① ⑫ 手、手指の骨折② ⑬ 総復習① ⑭ 総復習②		
教科書 参考文献	【教科書】 「柔道整復学・理論編 (改訂第5版)」南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験の成績、中間試験（授業内）、学習態度、授業内レポート、出席数等を総合的に		
履修アドバイス	各疾患についての理解を深めるために常に「なぜ？」と疑問を持ち、解決していくように心がけて下さい。		
担当教員(分担者)	金城		

R5年度

■授業科目 臨床柔道整復学Ⅲ			
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①下肢の骨折について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。		
授業内容	① 骨盤骨折復習 ② 骨盤骨折復習 ③ 大腿骨近位部骨折問題演習 ④ 大腿骨近位部骨折問題演習 ⑤ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折復習 ⑥ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折問題演習 ⑦ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折復習 ⑧ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折問題演習 ⑨ 下腿部骨折復習 ⑩ 下腿部骨折問題演習 ⑪ 足根骨骨折復習 ⑫ 足根骨骨折問題演習 ⑬ 足趾骨折復習 ⑭ 足趾骨折問題演習		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学 理論編 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅲ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員		瀬戸口
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	①下肢の骨折について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。			
授業内容	① 骨盤骨折復習 ② 骨盤骨折復習 ③ 大腿骨近位部骨折問題演習 ④ 大腿骨近位部骨折問題演習 ⑤ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折復習 ⑥ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折問題演習 ⑦ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折復習 ⑧ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折問題演習 ⑨ 下腿部骨折復習 ⑩ 下腿部骨折問題演習 ⑪ 足根骨骨折復習 ⑫ 足根骨骨折問題演習 ⑬ 足趾骨折復習 ⑭ 足趾骨折問題演習			
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学 理論編 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目	臨床柔道整復学Ⅲ		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①下肢の骨折について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。		
授業内容	① 骨盤骨折復習 ② 骨盤骨折復習 ③ 大腿骨近位部骨折問題演習 ④ 大腿骨近位部骨折問題演習 ⑤ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折復習 ⑥ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折問題演習 ⑦ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折復習 ⑧ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折問題演習 ⑨ 下腿部骨折復習 ⑩ 下腿部骨折問題演習 ⑪ 足根骨骨折復習 ⑫ 足根骨骨折問題演習 ⑬ 足趾骨折復習 ⑭ 足趾骨折問題演習		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学 理論編 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目	臨床柔道整復学Ⅳ		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	儀間
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復学の応用に対応していく為に基礎的な知識をしっかりと学ぶ。①診察・治療法・指導管理の対応力をあげる。②臨床では治療法も含め愛護的に診察の流れを身に付けることができる。		
授業内容	① 診察（注意点・進め方・流れ） ② 診察（注意点・進め方・流れ） ③ 治療法（骨折の整復法） ④ 治療法（骨折の整復法） ⑤ 治療法（脱臼の整復法） ⑥ 治療法（軟部組織損傷の初期処置） ⑦ 治療法（固定施行時の配慮） ⑧ 治療法（後療法） ⑨ 治療法（運動療法） ⑩ 治療法（物理療法①） ⑪ 治療法（物理療法②） ⑫ 治療法（物理療法③） ⑬ 指導管理① ⑭ 指導管理②		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第6版） 【参考文献】		
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+iPad+penを活用）→講義終了前に復習→講義内容の課題提出		
評価方法	定期試験（70%）、講義レポート提出（30%）などで総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間		

R5年度

■授業科目	臨床柔道整復学Ⅴ		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	金城
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	上肢脱臼・軟部組織損傷の知識を深めることはもちろん、国家試験においても出題頻度が高いことから、これらについては特に詳細に学び理解する		
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 肩関節の軟部組織損傷 ④ 肩関節の軟部組織損傷 ⑤ 肩関節の軟部組織損傷 ⑥ 肘関節脱臼 ⑦ 肘の軟部組織損傷 ⑧ 肘の軟部組織損傷 ⑨ 手関節の脱臼 ⑩ 手指部の脱臼 ⑪ 手関節周辺の軟部組織損傷 ⑫ 手関節周辺の軟部組織損傷 ⑬ 指の軟部組織損傷 ⑭ 指の軟部組織損傷		
教科書 参考文献	【教科書】 「柔道整復学・理論編 (改訂第5版)」南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験の成績、中間試験（授業内）、学習態度、授業内レポート、出席数等を総合的に		
履修アドバイス	各疾患についての理解を深めるために常に「なぜ？」と疑問を持ち、解決していくように心がけて下さい。		
担当教員(分担者)	金城		

R5年度

■授業科目		臨床柔道整復学VI		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員		瀬戸口
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	①下肢の脱臼・軟部組織損傷について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。			
授業内容	① 股関節脱臼復習 ② 股関節脱臼復習 ③ 膝蓋骨脱臼膝関節脱臼問題演習 ④ 膝蓋骨脱臼膝関節脱臼問題演習 ⑤ 足部脱臼復習 ⑥ 足部脱臼問題演習 ⑦ 股関節部軟部組織損傷復習 ⑧ 股関節軟部組織損傷問題演習 ⑨ 膝関節軟部組織損傷復習 ⑩ 膝関節軟部組織損傷問題演習 ⑪ 膝関節軟部組織損傷問題演習 ⑫ 下腿部軟部組織損傷復習 ⑬ 下腿部軟部組織損傷問題演習 ⑭ 足部軟部組織損傷復習			
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学 理論編 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目		基礎固定学Ⅰ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員		瀬戸口
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	①包帯の名称を覚える。②基本包帯法の技術を身につける。③足関節の基礎テーピングの技術を身につける。			
授業内容	① 導入 ② 導入 ③ 基本包帯2 ④ 基本包帯2 ⑤ 基本包帯3 ⑥ 基本包帯4 ⑦ 基本包帯5 ⑧ 基本包帯6 ⑨ 基本包帯7 ⑩ 基本包帯8 ⑪ 基本包帯9 ⑫ 基本包帯10 ⑬ 基本包帯11 ⑭ 基本包帯12			
教科書 参考文献	【教科書】 包帯固定学 【参考文献】			
授業方法	実技			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス	包帯を使った実技を中心に行う。受講時は必ず白衣着用するように。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目	基礎固定学 II		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①応用包帯固定法の技術を身につける。②足関節と膝関節の応用テーピング技術を身につける。③各種固定材料を作成する。		
授業内容	① 基本包帯復習1 ② 基本包帯復習1 ③ ジュール包帯 ④ ジュール包帯 ⑤ デゾー包帯 ⑥ 復習 ⑦ テーピング ⑧ テーピング ⑨ テーピング ⑩ 応用固定法 1 ⑪ 応用固定法 2 ⑫ 応用固定法 3 ⑬ 応用固定法 4 ⑭ 応用固定法 5		
教科書 参考文献	【教科書】 包帯固定学 【参考文献】		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	包帯を使った実技を中心に行う。受講時は必ず白衣着用するように。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目	応用柔道整復実技Ⅰ		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①上肢の骨折・脱臼の整復法を学び実践できる技術を身につける。②上肢の骨折・脱臼の固定法を学び実践できる技術を身につける。③上肢の軟部組織損傷の検査法を学び実践できる技術を身につける。		
授業内容	① 包帯固定復習 ② 包帯固定復習 ③ 外科頸骨折整復・固定 ④ 外科頸骨折整復・固定 ⑤ 外科頸骨折整復・固定 ⑥ 肩鎖関節脱臼整復・固定 ⑦ 肩関節脱臼整復・固定 ⑧ 肩関節脱臼整復・固定 ⑨ 肘関節脱臼整復・固定 ⑩ 肘関節脱臼整復・固定 ⑪ 手技療法 ⑫ 手技療法 ⑬ 復習 ⑭ 復習		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編実技編 【参考文献】配布プリント		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	座学で学習した各部位の整復・固定・検査法を学ぶ		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目	応用柔道整復実技Ⅱ		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①上肢の骨折・脱臼の整復法を学び実践できる技術を身につける。②上肢の骨折・脱臼の固定法を学び実践できる技術を身につける。③上肢の軟部組織損傷の検査法を学び実践できる技術を身につける。		
授業内容	① 前期復習 ② 前期復習 ③ 肩部軟部組織損傷 ④ 肩部軟部組織損傷 ⑤ 肩部軟部組織損傷 ⑥ 手技療法 ⑦ 手技療法 ⑧ コーレス骨折 ⑨ コーレス骨折 ⑩ 肘部軟部組織損傷肘部軟部組織損傷 ⑪ 手部軟部組織損傷 ⑫ 手部軟部組織損傷 ⑬ 復習 ⑭ 復習		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編実技編 【参考文献】配布プリント		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	座学で学習した各部位の整復・固定・検査法を学ぶ		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目	応用柔道整復実技Ⅲ		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	儀間
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	下肢の各軟部組織損傷の固定法を臨床で活用できる。①患者の患部の処置部位を愛護的にできる。②患肢と損傷部位の状態把握ができる。③固定後の確認が適切にできる。		
授業内容	① ハムストリングス肉離れ（固定実技） ② ハムストリングス肉離れ（固定実技） ③ 大腿四頭筋打撲 ④ 大腿四頭筋打撲 ⑤ 大腿四頭筋打撲 ⑥ 大腿四頭筋打撲 ⑦ オスグット・シュラッター病 ⑧ オスグット・シュラッター病 ⑨ シンスプリント ⑩ シンスプリント ⑪ シンスプリント ⑫ 下腿三頭筋肉離れ ⑬ 下腿三頭筋肉離れ ⑭ 下腿三頭筋肉離れ		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・実技編（改訂第2版） 【参考文献】 配布資料		
授業方法	実技		
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/5以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。認定実技試験項目の内容があります。白衣の忘れないように。		
担当教員(分担者)	儀間		

R5年度

■授業科目		応用柔道整復実技Ⅳ				
		実務者経験有無	有			
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員		儀間		
単位	1単位	時間	30時間			
科目区分	専門分野	必選区分	必修			
授業の目標	下肢の骨折・軟部組織損傷の固定法について施すことができる。①患者への説明が適切にできる。②助手への指示が適切にできる。③固定の出来上がりが綺麗で適切にできる。					
授業内容	① 大腿骨骨幹部骨折（中央1/3部骨折の整復） ② 大腿骨骨幹部骨折（中央1/3部骨折の整復） ③ 股関節後方脱臼（コッヘル法） ④ 股関節後方脱臼（コッヘル法） ⑤ 膝蓋骨横骨折（絆創膏固定+クラーメル副子固定） ⑥ 腸脛靭帯炎（グラスティングテスト） ⑦ 膝半月板損傷（ワトソン・ジョーンズテスト） ⑧ 膝半月板損傷（ステインマンテスト） ⑨ 膝十字靭帯損傷（ラテラルピボットシフトテスト） ⑩ 膝側副靭帯損傷（グラビティテスト） ⑪ アキレス腱断裂（トンプソンテスト） ⑫ 足関節外側靭帯損傷（U字副子固定） ⑬ 第5中足骨基部裂離骨折（厚紙副子固定） ⑭ 第1趾MP関節脱臼（整復）					
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第2版） 【参考文献】 配布資料					
授業方法	実技					
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる					
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/5以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。認定実技試験項目の内容があります。白衣の忘れがないように。					
担当教員(分担者)	儀間					

R5年度

■授業科目	臨床柔道整復実技Ⅰ		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①骨折・脱臼の整復法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。②軟部組織損傷の検査法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。		
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 骨折の診察及び整復能力 コーレス骨折 ④ 骨折の診察及び整復能力 コーレス骨折 ⑤ 脱臼の診察及び整復能力 肩鎖関節脱臼上方脱臼 ⑥ 脱臼の診察及び整復能力 肩関節前方烏口下脱臼 ⑦ 脱臼の診察及び整復能力 肘関節後方脱臼 ⑧ 脱臼の診察及び整復能力 肘内障 ⑨ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 肩腱板損傷 ⑩ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 上腕二頭筋長頭腱損傷 ⑪ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 大腿部軟部組織損傷 ⑫ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 膝関節軟部組織損傷 ⑬ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 膝関節軟部組織損傷 ⑭ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 膝関節軟部組織損傷		
教科書 参考文献	【教科書】 「柔道整復学・理論編 (改訂第6版)」 「柔道整復学・実技編 (改訂第2版)」 【参考文献】配布プリント		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験（実技試験、筆記試験）を中心に、受講態度、出席状況など総合的に評価する。		
履修アドバイス	認定実技審査、必修に出題される項目が含まれる重要な科目であるため、それを十分に意識し取り組むこと。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目		臨床柔道整復実技Ⅱ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員		瀬戸口
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	①骨折・脱臼の整復法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。②軟部組織損傷の検査法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。			
授業内容	① 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 下腿部軟部組織損傷 ② 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 下腿部軟部組織損傷 ③ 脱臼の診察及び検査の能力 総復習① ④ 脱臼の診察及び検査の能力 総復習① ⑤ 脱臼の診察及び検査の能力 総復習② ⑥ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 総復習 ⑦ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 総復習 ⑧ 認定実技試験対策 ⑨ 認定実技試験対策 ⑩ 認定実技試験対策 ⑪ 認定実技試験対策 ⑫ 認定実技試験対策 ⑬ 認定実技試験対策 ⑭ 認定実技試験対策			
教科書 参考文献	【教科書】 「柔道整復学・理論編 (改訂第6版)」 「柔道整復学・実技編 (改訂第2版)」 【参考文献】配布プリント			
授業方法	実技			
評価方法	定期試験（実技試験、筆記試験）を中心に、受講態度、出席状況など総合的に評価する。			
履修アドバイス	認定実技審査、必修に出題される項目が含まれる重要な科目であるため、それを十分に意識し取り組むこと。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目		臨床柔道整復実技Ⅲ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員		金城
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	固定の施術に関する全身状態や患肢の確認、骨折や脱臼、打撲、捻挫、軟部組織損傷に対する基本的な臨床固定技能を身につけることができる。			
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 固定の能力 第5指中手骨頸部骨折 ④ 固定の能力 第5指中手骨頸部骨折 ⑤ 固定の能力 下腿骨骨幹部骨折 ⑥ 固定の能力 上腕骨骨幹部骨折 ⑦ 固定の能力 肋骨骨折 ⑧ 固定の能力 肩鎖関節上方脱臼 ⑨ 固定の能力 肩関節前方脱臼 ⑩ 固定の能力 肘関節後方脱臼 ⑪ 固定の能力 手第2指PIP関節背側脱臼 ⑫ 固定の能力 アキレス腱断裂 ⑬ 固定の能力 足関節外側靭帯損傷 ⑭ 固定の能力 膝関節内側側副靭帯損傷テーピング			
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・実技編、資料プリント 【参考文献】			
授業方法	実技			
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる			
履修アドバイス				
担当教員(分担者)	金城			

R5年度

■授業科目	臨床柔道整復実技Ⅳ		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	金城
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	下肢の各種損傷に対する理学的検査、整復技能、固定技能、臨床評価法、鑑別的評価法を身につけることができる。 安心、安全な柔道整復施術を提供するための基本的な技能を身につけることができる。 国家試験の出題基準に沿った問題演習を行い、国家試験対策をおこなう。		
授業内容	① 固定の能力 内側側副靭帯損傷テープング ② 固定の能力 内側側副靭帯損傷テープング ③ 固定の能力 (肘関節後方脱臼・コーレス骨折) ④ 固定の能力 (肘関節後方脱臼・コーレス骨折) ⑤ 固定の能力 (第5中手骨頸部骨折・第2PIP背側脱臼) ⑥ 固定の能力 (肋骨骨折) ⑦ 固定の能力 (上腕骨骨幹部骨折ミッデルドルフ三角副子) ⑧ 固定の能力 (肩関節前方脱臼) ⑨ 固定の能力 (下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂) ⑩ 問題演習 ⑪ 問題演習 ⑫ 問題演習 ⑬ 問題演習 ⑭ 問題演習		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・実技編、資料プリント 【参考文献】		
授業方法	実技		
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる評価方法を用いる。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)	金城		

R5年度

■授業科目	臨床柔整トレーナー学		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	儀間
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	スポーツ現場におけるスポーツトレーナーの役割とその業務について理解し、具体的な症例に対して柔道整復師が行うスポーツトレーナーとして臨床的な対応がグループワークを行いながら患者に寄り添うことができる。		
授業内容	① 講義の進め方（例） ② 講義の進め方（例） ③ 外傷の治療法 ④ 外傷の治療法 ⑤ 外傷の予後 ⑥ 外傷の固定法 ⑦ 外傷の後療法 ⑧ 1回目の発表試験 ⑨ 外傷の発生原因 ⑩ 外傷の症状 ⑪ 外傷の治療法 ⑫ 外傷の予後 ⑬ 外傷の固定法 ⑭ 外傷の後療法		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第2版） 【参考文献】		
授業方法	実技		
評価方法	1回目と2回目の発表試験（問診+実技）を評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/5以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からぬ所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。白衣の忘れないように。		
担当教員（分担者）		儀間	

R5年度

■授業科目		臨床実習Ⅰ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 通年	責任担当教員		瀬戸口・儀間
単位	1単位	時間		45時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	①医療人として必要な挨拶や、礼儀作法を身につける。②付属整骨院にて患者対応のシミュレーションを経て現場で実践できるようになる。			
授業内容	① 附属整骨院実習 ② 附属整骨院実習 ③ 附属整骨院実習 ④ 附属整骨院実習 ⑤ 附属整骨院実習 ⑥ 附属整骨院実習 ⑦ 附属整骨院実習 ⑧ 附属整骨院実習 ⑨ 附属整骨院実習 ⑩ 附属整骨院実習 ⑪ 附属整骨院実習 ⑫ 附属整骨院実習 ⑬ 附属整骨院実習 ⑭ 附属整骨院実習			
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】			
授業方法	実技演習			
評価方法	取り組みの態度、出席状況等で総合的に評価する			
履修アドバイス	基本的な挨拶はしっかり行き、実習施設の規則にしたがう事。			
担当教員(分担者)	瀬戸口・儀間			

R5年度

■授業科目		臨床実習Ⅲ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員		儀間
単位	1単位	時間		45時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	個々の対象者の多様性から引き起こされる障害の複雑さを理解し、これまでの学習の重要性を再認識すると共に今後の学習目標を明確にする。			
授業内容	① 中間評価 ② 中間評価 ③ クリニック実習 ④ クリニック実習 ⑤ クリニック実習 ⑥ クリニック実習 ⑦ クリニック実習 ⑧ クリニック実習 ⑨ クリニック実習 ⑩ クリニック実習 ⑪ クリニック実習 ⑫ クリニック実習 ⑬ クリニック実習 ⑭ クリニック実習			
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】			
授業方法	実技演習			
評価方法	取り組みの態度、出席状況等で総合的に評価する			
履修アドバイス	基本的な挨拶はしっかりを行い、実習施設の規則にしたがう事。			
担当教員(分担者)	儀間			

R5年度

■授業科目		臨床実習Ⅳ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 通年	責任担当教員		金城
単位	1単位	時間		45時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	柔道整復師が施術する外傷の病態を把握するための評価(問診、視診、触診)を学び、実践できるようにする。外傷、障害の検査法、評価法を学習する。骨折、脱臼、捻挫、挫傷といった枠にとらわれずに、各部位における外傷、障害について総合的に判断できる能力を養う。認定実技審査を見据えた知識だけでなく、臨床的能力の習得も目標とする。			
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 評価（問診・視診・触診の理解） ④ 評価（問診・視診・触診の理解） ⑤ 評価（問診・視診・触診の理解） ⑥ 評価（問診・視診・触診の理解） ⑦ 治療法（整復法・固定法） ⑧ 治療法（整復法・固定法） ⑨ 治療法（整復法・固定法） ⑩ 治療法（整復法・固定法） ⑪ 治療法（整復法・固定法） ⑫ 治療法（整復法・固定法） ⑬ 治療法（整復法・固定法） ⑭ 治療法（整復法・固定法）			
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学（理論編・実技編） 【参考文献】			
授業方法	実技演習			
評価方法	取り組みの態度、出席状況等で総合的に評価する			
履修アドバイス	実習施設の状況により講義内容は前後、変更することがあります。			
担当教員(分担者)	金城			

R5年度

■授業科目		基礎演習Ⅰ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員		瀬戸口
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	①国家試験出題科目について合格できる知識を身につける。②毎週確認テストを実施することにより学習の継続力を身につける。			
授業内容	① コツコツ小テスト1 ② コツコツ小テスト1 ③ コツコツ小テスト4 ④ コツコツ小テスト4 ⑤ コツコツ小テスト5 ⑥ コツコツ小テスト6 ⑦ コツコツ小テスト7 ⑧ コツコツ小テスト8 ⑨ コツコツ小テスト9 ⑩ コツコツ小テスト10 ⑪ コツコツ小テスト11 ⑫ コツコツ小テスト12 ⑬ コツコツ小テスト13 ⑭ コツコツ小テスト14			
教科書 参考文献	【教科書】 毎日コツコツ丸暗記 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス	国家試験合格するためには毎日暗記することが重要です。毎週の確認テストが主な内容ですのでしっかりと取り組んでください。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目		基礎演習 II		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員		瀬戸口
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	①国家試験出題科目について合格できる知識を身につける。②毎週確認テストを実施することにより学習の継続力を身につける。			
授業内容	① コツコツ小テスト16 ② コツコツ小テスト16 ③ コツコツ小テスト19 ④ コツコツ小テスト19 ⑤ コツコツ小テスト20 ⑥ コツコツ小テスト21 ⑦ コツコツ小テスト22 ⑧ コツコツ小テスト23 ⑨ コツコツ小テスト24 ⑩ コツコツ小テスト25 ⑪ コツコツ小テスト26 ⑫ コツコツ小テスト27 ⑬ コツコツ小テスト28 ⑭ コツコツ小テスト29			
教科書 参考文献	【教科書】 毎日コツコツ丸暗記 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス	国家試験合格するためには毎日暗記することが重要です。毎週の確認テストが主な内容ですのでしっかりと取り組んでください。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目		柔道整復セミナーⅢ		
		実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	金城	
単位	1単位	時間	30時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
授業の目標	基礎医学および臨床医学の柔道整復学関連領域の知識と、その応用能力により柔道整復師国家試験の該当科目において合格可能なレベルに達する。			
授業内容	① 運動器の構造 ② 運動器の構造 ③ 後療法を行う際の測定② ④ 後療法を行う際の測定② ⑤ 後療法を行う際の測定③ ⑥ 手技療法① ⑦ 手技療法② ⑧ 物理療法① ⑨ 物理療法② ⑩ 運動療法① ⑪ 運動療法② ⑫ 各損傷別後療法① ⑬ 各損傷別後療法② ⑭ 各損傷別後療法③			
教科書 参考文献	【教科書】 解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学、 【参考文献】			
授業方法	講義・演習			
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する			
履修アドバイス	わからない事は積極的に質問すること。指定の教科書のみではなく様々な教科書を参考にする事。			
担当教員(分担者)	金城			

R5年度

■授業科目		柔道整復セミナーIV		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員		金城
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門分野	必選区分		必修
授業の目標	基礎医学および臨床医学の柔道整復学関連領域の知識と、その応用能力により柔道整復師国家試験の該当科目において合格可能なレベルに達する。			
授業内容	① 復習(測定) ② 復習(測定) ③ 演習 ④ 演習 ⑤ 演習 ⑥ 演習 ⑦ 演習 ⑧ 演習 ⑨ 演習 ⑩ 演習 ⑪ 演習 ⑫ 演習 ⑬ 演習 ⑭ 演習			
教科書 参考文献	【教科書】 解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学、 【参考文献】			
授業方法	講義・演習			
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する			
履修アドバイス	わからない事は積極的に質問すること。指定の教科書のみではなく様々な教科書を参考にする事。			
担当教員(分担者)	金城			

R5年度

■授業科目	社会保障概論		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	実務者経験有無	有
単位	1単位	責任担当教員	瀬戸口
科目区分	専門基礎分野	時間	15時間
授業の目標	必選区分 必修 51		
授業内容	① 社会保障の仕組み ② 社会保障の仕組み ③ 療養費 ④ 療養費 ⑤ 問題演習 ⑥ 問題演習 ⑦ 問題演習 ⑧ まとめ		
教科書 参考文献	【教科書】 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	国民医療と柔道整復の業務に関わる療養費について卒後に関わることも多いのでしっかりと知識を身に着けてください。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R5年度

■授業科目		関係法規		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員		瀬戸口
単位	1単位	時間		15時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分		必修
授業の目標	51			
授業内容	① 序論 ② 序論 ③ 柔道整復師法 ④ 柔道整復師法 ⑤ 柔道整復師法 ⑥ 柔道整復師法 ⑦ 柔道整復師法 ⑧ その他関係法規			
教科書 参考文献	【教科書】 関係法規 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス	スライドを中心に講義を進める。国家試験必修科目であるため講義後にはその都度復習するように。			
担当教員(分担者)	瀬戸口			

R5年度

■授業科目		柔道		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員		小森
単位	1単位	時間		30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分		必修
授業の目標	51			
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 柔道着着脱 後方受身 ④ 柔道着着脱 後方受身 ⑤ 後方受身 ⑥ 柔道に必要な考え方 ⑦ 後受身 横受身 ⑧ 後受身 横受身 前方回転受身 ⑨ 後受身 横受身 前方回転受身 ⑩ 後受身 横受身 前方回転受身 ⑪ 後受身 横受身 前方回転受身 寝技（けさ固め） ⑫ 後受身 横受身 前方回転受身 寝技（横四方固） ⑬ 後受身 横受身 前方回転受身 寝技（袈裟固 横四方固） ⑭ 前方回転受身 礼法			
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】柔道実技 虎の巻			
授業方法	実技			
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。			
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。			
担当教員(分担者)	小森			

R5年度

■授業科目	柔道 II		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	小森
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 浮落 背負投 ④ 浮落 背負投 ⑤ 手技 ⑥ 手技 ⑦ 手技 テニスボールを使用したトレーニング ⑧ 手技 浮腰 ⑨ 手技 浮腰 ⑩ 手技 浮腰 ⑪ 手技 礼法 ⑫ 手技 礼法 ⑬ 手技 礼法 ⑭ 浮落 礼法		
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】柔道実技 虎の巻		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)	小森		

R5年度

■授業科目		柔道Ⅲ		
		実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	儀間	
単位	1単位	時間	30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
授業の目標	51			
授業内容	① オリエンテーション ② オリエンテーション ③ 浮落 背負投 ④ 浮落 背負投 ⑤ 浮落 背負投 肩車 ⑥ 手技・浮腰 ⑦ 手技・浮腰 ⑧ 手技 ⑨ 手技・浮腰・払腰 ⑩ 手技・浮腰・払腰 (形通し) ⑪ 鈎込腰 ⑫ 手技 腰技 ⑬ 送足払 支鈎込足 ⑭ 手技・腰技・足技			
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】柔道実技 虎の巻			
授業方法	実技			
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。			
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。			
担当教員(分担者)	儀間			

R5年度

■授業科目	柔道Ⅳ		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	儀間
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① 受身復習 寝技（固技） ② 受身復習 寝技（固技） ③ 受身復習 寝技（固技・乱取） 大腰（左） ④ 受身復習 寝技（固技・乱取） 大腰（左） ⑤ 受身復習 寝技（固技・乱取） 大腰（右左） ⑥ 受身復習 寝技（固技・乱取） 大腰（移動しながら） ⑦ 受身復習 寝技（固技・乱取） 自由乱取（1分×3本×2セット） ⑧ 受身復習 寝技（固技・乱取） 自由乱取（1分×3本×2セット） 浮落（右） ⑨ 受身復習 寝技（固技・乱取） 約束乱取 自由乱取（1分×3本×2セット） 浮落（右） ⑩ 受身復習 寝技（固技・乱取） 約束乱取 自由乱取（1分×3本×3セット） 浮落（左） ⑪ 受身復習 寝技（固技・乱取） 約束乱取 自由乱取（1分×3本×4セット） 浮落（左右） ⑫ 受身復習 寝技（固技・乱取） 浮落（左右） 形礼法（座礼・立礼） ⑬ 受身復習 寝技（固技・乱取） 浮落（左右） 形礼法 ⑭ 受身復習 寝技（固技・乱取） 浮落（左右） 形礼法		
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】柔道実技 虎の巻		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)	儀間		

R5年度

■授業科目		柔道V							
		実務者経験有無		有					
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員		金城					
単位	1単位	時間	30時間						
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修						
授業の目標	51								
授業内容	① 受身復習 ② 受身復習 ③ 受身 手技 寝技 ④ 受身 手技 寝技 ⑤ 受身 手技 浮腰（右） 寝技 ⑥ 受身 手技 浮腰（左） 寝技 ⑦ 受身 手技 浮腰（左右） 寝技 ⑧ 受身 手技 自由乱取（1分×3本×2セット） 寝技 ⑨ 受身 手技 扱腰（右） 寝技 ⑩ 受身 手技 扱腰（左） 寝技 ⑪ 受身 手技 扱腰（右左） 寝技 ⑫ 受身 手技 腰技 寝技 礼法（立礼・坐礼） ⑬ 受身 手技 腰技 寝技 形礼法 ⑭ 受身 手技 腰技 寝技 形礼法								
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】柔道実技 虎の巻								
授業方法	実技								
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。								
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。								
担当教員(分担者)	金城								

R5年度

■授業科目		柔道VI		
		実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	金城	
単位	1単位	時間	30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
授業の目標	51			
授業内容	① 受身 手技 腰技 足技復習 ② 受身 手技 腰技 足技復習 ③ 受身 形～約束乱取 ④ 受身 形～約束乱取 ⑤ 受身 形～約束乱取 ⑥ 認定実技対策① ⑦ 認定実技対策② ⑧ 認定実技対策③ ⑨ 認定実技対策④ ⑩ 認定実技対策⑤ ⑪ 認定実技対策⑥ ⑫ 認定実技対策⑥ ⑬ 認定実技対策⑥ ⑭ 柔道競技におけるケガ・障害 1			
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】柔道実技 虎の巻			
授業方法	実技			
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。			
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。			
担当教員(分担者)	金城			

R5年度

■授業科目	社会科学Ⅰ		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	熊谷
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① 講義ガイダンス：社会科学とは？/リーガルマインド/レジュメ作成 ② 講義ガイダンス：社会科学とは？/リーガルマインド/レジュメ作成 ③ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ④ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑤ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑥ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑦ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑧ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑨ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑩ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑪ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑫ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑬ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 ⑭ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文		
教科書 参考文献	【教科書】 全国紙及び地方紙のコピー 【参考文献】		
授業方法	講義・発表		
評価方法	試験40点平常点60点（提出レジメ、グループ報告、質疑応答、小論文など） 各自作成したレジュメを全員分コピー配布する（毎週）		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)	熊谷		

R5年度

■授業科目	社会科学II		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	熊谷
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	<p>① 講義ガイダンス：グループ学習の成果としてレジュメを作成し、順次報告及び質疑応答</p> <p>② 講義ガイダンス：グループ学習の成果としてレジュメを作成し、順次報告及び質疑応答</p> <p>③ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>④ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>⑤ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>⑥ レジュメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り） レンユク・提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑦ グループ報告レジュメを全員に配布する。 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>⑧ レジュメ提出 グループごとに報告 報告①</p> <p>⑨ レジュメ提出 グループごとに報告 報告②</p> <p>⑩ レジュメ提出 グループごとに報告 報告③</p> <p>⑪ レジュメ提出 グループごとに報告 報告④</p> <p>⑫ レジュメ提出 グループごとに報告 報告⑤</p> <p>⑬ レジュメ提出 グループごとに報告 報告⑥</p> <p>⑭ レジュメ提出 グループごとに報告 報告⑦</p>		
教科書 参考文献	【教科書】 全国紙及び地方紙のコピー 【参考文献】		
授業方法	講義・発表		
評価方法	試験40点平常点61点（提出レジメ、グループ報告、質疑応答、小論文など）		
履修アドバイス	各自作成したレジュメを全員分コピー配布する（毎週）		
担当教員(分担者)		熊谷	

R5年度

■授業科目	自然科学Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	実務者経験有無	有
単位	2単位	責任担当教員	宮里
科目区分	基礎分野	時間	30時間
授業の目標	51		
授業内容	① 生物学を学ぶ基礎知識 ② 生物学を学ぶ基礎知識 ③ 発生と分化、ヒトの発生と成長 ④ 発生と分化、ヒトの発生と成長 ⑤ 消化と吸收 ⑥ 栄養素の利用 ⑦ 血液と免疫Ⅰ ⑧ 血液と免疫Ⅱ ⑨ 血液の循環と呼吸 ⑩ 体液調節と尿生成 ⑪ 運動の法則 ⑫ てこの原理 ⑬ 問題演習と復習Ⅰ ⑭ 問題演習		
教科書 参考文献	【教科書】 ていねいな生物学 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	試験		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)	宮里		

R5年度

■授業科目	自然科学II		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	実務者経験有無	有
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① 神経の構造と機能 ② 神経の構造と機能 ③ 刺激の受容としくみⅠ ④ 刺激の受容としくみⅠ ⑤ 刺激の受容としくみⅡ ⑥ ホルモンの種類と働き ⑦ ホルモンによる生理機能の調節 ⑧ 化学基礎Ⅰ ⑨ 化学基礎Ⅱ ⑩ 遺伝の法則と血液型の遺伝 ⑪ 光合成と植物の生殖 ⑫ 沖縄の自然 ⑬ 問題演習と復習Ⅰ ⑭ 問題演習		
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】		
授業方法			
評価方法			
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

R5年度

■授業科目	外国語 I		
	実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	新垣
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① Unit1:Substitution Practice1, Fundamental Medical English Phrases1, Dialogue Practice1 ② Unit1:Substitution Practice1, Fundamental Medical English Phrases1, Dialogue Practice1 ③ Unit4:SP4, FMEP4, DP4 ④ Unit4:SP4, FMEP4, DP4 ⑤ Unit5:SP5, FMEP5, DP5 ⑥ Unit6:SP6, FMEP6, DP6 ⑦ Unit7:SP7, FMEP7, DP7 ⑧ Unit8:SP8, FMEP8, DP8 ⑨ Unit9:SP9, FMEP9, DP9 ⑩ Unit10:SP10, FMEP10, DP10 ⑪ Unit11:SP11, FMEP11, DP11 ⑫ Unit12:SP12, FMEP12, DP12 ⑬ Unit13:SP13, FMEP13, DP13 ⑭ Unit14:SP14, FMEP14, DP14		
教科書 参考文献	【教科書】 プリント教材English Textbook I 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	試験60点 平常点40点		
履修アドバイス	1) Substitution Practice 医療英語の基本文型頭の置き換え練習を通して、話書く為に必要な構文を対話練習しながら身につける。ペアでレッスンする。 2) Easy Medical English Phrases 施術英語を通して英会話は決して難しいものではなく、話す気さえあれば誰でも身につけられることを理解させる。		
担当教員(分担者)	新垣		

R5年度

■授業科目		外国語II	
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	新垣
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① Unit1: Substitution Practice1, Fundamental Medical English Phrases1, Dialogue Practice2 ② Unit1: Substitution Practice1, Fundamental Medical English Phrases1, Dialogue Practice2 ③ Unit4: SP4, FMEP4, DP5 ④ Unit4: SP4, FMEP4, DP5 ⑤ Unit5: SP5, FMEP5, DP6 ⑥ Unit6: SP6, FMEP6, DP7 ⑦ Unit7: SP7, FMEP7, DP8 ⑧ Unit8: SP8, FMEP8, DP9 ⑨ Unit9: SP9, FMEP9, DP10 ⑩ Unit10: SP10, FMEP10, DP11 ⑪ Unit11: SP11, FMEP11, DP12 ⑫ Unit12: SP12, FMEP12, DP13 ⑬ Unit13: SP13, FMEP13, DP14 ⑭ Unit14: SP14, FMEP14, DP15		
教科書 参考文献	【教科書】 プリント教材English Textbook II 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	試験60点 平常点41点		
履修アドバイス	1) Substitution Practice 医療英語の基本文型頭の置き換え練習を通して、話書く為に必要な構文を対話練習しながら身につける。ペアでレッスンする。 2) Easy Medical English Phrases 施術英語を通して英会話は決して難しいものではなく、話す気さえあれば誰でも身につけられることを理解させる。		
担当教員(分担者)	新垣		

R5年度

■授業科目	運動学Ⅰ		
		実務者経験有無	有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	砂川
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① 授業ガイダンス ② 授業ガイダンス ③ 並進運動と回転運動 ④ 並進運動と回転運動 ⑤ 並進運動の力学 ⑥ 回転運動の力学 ⑦ 流体力学 ⑧ 運動実践学 ⑨ 運動生理学と解剖学の基礎 ⑩ 立位姿勢の科学 ⑪ 歩行と走行の科学 ⑫ 筋腱複合体 ⑬ 運動スキル ⑭ バイオメカニクスの測定と評価		
教科書 参考文献	【教科書】 運動学 【参考文献】 バイオメカニクスで読み解くスポーツ動作の科学		
授業方法	講義		
評価方法	毎回の小テスト100%		
履修アドバイス	授業で公開するスライド内に殆どの答えが載っているため小テストの難易度は高くない。		
担当教員(分担者)	砂川		

R5年度

■授業科目		運動学 II		
		実務者経験有無	有	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	砂川	
単位	2単位	時間	30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
授業の目標	51			
授業内容	① 授業ガイダンス ② 授業ガイダンス ③ 骨格筋系、神経系、内分泌系と運動 ④ 骨格筋系、神経系、内分泌系と運動 ⑤ 運動と栄養に関する基礎理論 ⑥ 運動と心理に関する基礎理論 ⑦ バイオメカニクスの基礎理論 ⑧ スポーツ・トレーニング動作のバイオメカニクス ⑨ スポーツ外傷とリハビリテーション ⑩ トレーニング計画の立案 ⑪ トレーニング法の理論とプログラム ⑫ トレーニング効果の測定と評価 ⑬ 性・年令に応じた運動 ⑭ 健康づくりと運動プログラム			
教科書 参考文献	【教科書】 運動学 【参考文献】 トレーニング科学 ストレングス＆コンディショニング I (理論編) NSCAジャパン編著			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験70% 課題またはレポート30%			
履修アドバイス				
担当教員(分担者)	砂川			

R5年度

■授業科目	リハビリテーション医学Ⅰ		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	金城（仁）
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① リハビリテーションの概念・歴史・定義・理念 ② リハビリテーションの概念・歴史・定義・理念 ③ 筋肉の構造、筋収縮 ④ 反射、重心、歩行 ⑤ 筋肉の構造、筋収縮 ⑥ 反射、重心、歩行 ⑦ 身体所見、バイタルサイン、意識障害 ⑧ 小児運動発達の評価、原始反射 ⑨ ADL、IADL、バーセル指數、FIM ⑩ 心理的評価、認知症の評価、電気生理学的検査 ⑪ 画像診断、失調症 ⑫ 障害の評価、関節拘縮、関節変形、筋萎縮、痙攣 ⑬ 神經麻痺、徒手筋力テスト、ブルンストローム法ステージ ⑭ 摂食嚥下障害、高次機能障害 ⑮ 障害の受容、廃用性症候群、関節可動域訓練、リンパ浮腫 ⑯ 運動単位、筋繊維の種類と性質、筋肉とエネルギー ⑰ 筋収縮の種類、筋力強化、中枢性麻痺・痙攣へのアプローチ ⑱ 慢性疼痛、痛みの伝導路、バイオフィードバック ⑲ 歩行障害に対するリハビリ、全身運動、リスク管理 ⑳ リハビリ関連職種、理学療法（運動療法・物理療法） ㉑ 作業療法、言語聴覚療法		
教科書 参考文献	【教科書】 リハビリテーション医学 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	PC、プロジェクトの準備をしておくように		
担当教員(分担者)	金城（仁）		

R5年度

■授業科目		リハビリテーション医学Ⅱ		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員		金城（仁）
単位	2単位	時間		30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分		必修
授業の目標	51			
授業内容	① 上肢装具、下肢装具、体幹装具 ② 上肢装具、下肢装具、体幹装具 ③ パーキンソン病のリハビリテーション ④ 脳卒中のリハビリテーション ⑤ 骨折治癒機転、整復法と固定法、骨折の保存的治療と手術的治療 ⑥ 偽関節と骨折癒合遅延因子 ⑦ 骨粗鬆症、骨粗鬆における骨折好発部位 ⑧ 脊椎骨折、橈骨遠位端骨折 ⑨ 上腕骨近位部骨折、捻挫、足関節捻挫 ⑩ 上肢損傷後症候群 ⑪ 肩関節・テニス肘・野球肘・変形性肘関節症 ⑫ 上肢損傷後症候群 ⑬ Volkmann拘縮・手関節・手指 ⑭ 下肢損傷後症候群 ⑮ 大腿骨近位部骨折、股関節脱臼、ペルテス病、発育性股関節形成不全症 ⑯ 下肢損傷後症候群 ⑰ 膝関節韌帯損傷、変形性膝関節症、踵骨骨折、中足骨骨折 ⑱ 頸肩腕症候群、胸郭出口症候群、バレ・リュー症候群 ⑲ 脊髓損傷のリハビリテーション ⑳ 腰痛症、肋骨骨折、アキレス腱断裂、リハビリテーションと福祉			
教科書 参考文献	【教科書】 リハビリテーション医学 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス	PC、プロジェクトの準備をしておくように			
担当教員(分担者)	金城（仁）			

R5年度

■授業科目	臨床医学Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期		実務者経験有無 有
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① ガイダンス・解剖生理学① ② ガイダンス・解剖生理学① ③ 解剖生理学④ ④ 解剖生理学④ ⑤ 解剖生理学⑤ ⑥ 解剖生理学⑥ ⑦ バイタルサイン ⑧ 診察① ⑨ 診察② ⑩ 臨床症状① ⑪ 臨床症状② ⑫ 臨床検査・画像検査 ⑬ 治療総論 ⑭ 期末試験		
教科書 参考文献	【教科書】 一般臨床医学、配布資料 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・平常点		
履修アドバイス	パワーポイントでプレゼンテーションするため、講義前にパソコンを用意するように。		
担当教員(分担者)	岡本		

R5年度

■授業科目	臨床医学Ⅱ		
履修時期	実務者経験有無 メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期		
単位	2単位	責任担当教員 時間	有 岡本 30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① 循環器疾患 ② 循環器疾患 ③ 消化器疾患② ④ 消化器疾患② ⑤ 代謝性疾患 ⑥ 内分泌疾患 ⑦ 血液造血器疾患 ⑧ 腎・尿路疾患 ⑨ 脳・神経疾患 ⑩ 感染症 ⑪ アレルギー疾患 ⑫ 膜原病 ⑬ 環境因子による疾病・中毒 ⑭ 期末試験		
教科書 参考文献	【教科書】 一般臨床医学、配布資料 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・平常点		
履修アドバイス	パワーポイントでプレゼンテーションするため、講義前にパソコンを用意するよう。		
担当教員(分担者)	岡本		

R5年度

■授業科目		整形外科学 I		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員		秋山
単位	2単位	時間		30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分		必修
授業の目標	51			
授業内容	① 整形外科の基本 ② 整形外科の基本 ③ 検査 ④ 検査 ⑤ 治療 ⑥ 骨折 ⑦ 感染症 ⑧ 腫瘍 ⑨ 関節炎 ⑩ 骨系統疾患 ⑪ 骨端症 ⑫ 神経絞扼性疾患 ⑬ 腕神経叢 ⑭ ダイジェスト			
教科書 参考文献	【教科書】 整形外科学(改訂4版) 南江堂 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	成績評価基準は、期末試験の獲得点数が主であるが、それにて評価が難しい場合は、再試験による評価とする。			
履修アドバイス	柔道整復師は、一対一で「病を持つ人」の前に立つことを許された国家資格である。整形外科学の知識が一般人以下であるのは、たとえ学生であっても恥ずべきことであるという自覚をもって講義を受けるように			
担当教員(分担者)	秋山			

R5年度

■授業科目	整形外科学 II		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	秋山
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① 頸椎① ② 頸椎① ③ 腰椎 ④ 腰椎 ⑤ 肩 ⑥ 肘 ⑦ 前腕・手関節 ⑧ 手 ⑨ 骨盤・股関節 ⑩ 大腿 ⑪ 膝 ⑫ 下腿 ⑬ 足関節 ⑭ 期末試験		
教科書 参考文献	【教科書】 整形外科学(改訂5版) 南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	成績評価基準は、期末試験の獲得点数が主であるが、それにて評価が難しい場合は、再試験による評価となる。		
履修アドバイス	柔道整復師は、一対一で「病を持つ人」の前に立つことを許された国家資格である。整形外科学の知識が一般人以下であるのは、たとえ学生であっても恥ずべきことであるという自覚をもって講義を受けるように		
担当教員(分担者)	秋山		

R5年度

■授業科目	外科学Ⅰ		
	実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	川崎
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	51		
授業内容	① 損傷① ② 損傷① ③ 外科感染症② ④ 外科感染症② ⑤ 腫瘍① ⑥ 腫瘍② ⑦ ショック ⑧ 輸血・輸液① ⑨ 輸血・輸液② ⑩ 消毒と滅菌 ⑪ 手術 ⑫ 麻酔 ⑬ 移植と免疫 ⑭ 出血と止血		
教科書 参考文献	【教科書】 外科学概論 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)	川崎		

R5年度

■授業科目		外科学II		
		実務者経験有無		有
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員		川崎
単位	2単位	時間		30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分		必修
授業の目標	51			
授業内容	① 心肺蘇生法 ② 心肺蘇生法 ③ 甲状腺、頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患① ④ 甲状腺、頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患① ⑤ 胸壁・呼吸器疾患② ⑥ 心臓・脈管疾患① ⑦ 心臓・脈管疾患② ⑧ 乳腺疾患 ⑨ 腹部外科疾患① ⑩ 腹部外科疾患② ⑪ 腹部外科疾患③ ⑫ 腹部外科疾患④ ⑬ 前期・後期授業復習 ⑭ 前期・後期授業復習			
教科書 参考文献	【教科書】 外科学概論 【参考文献】			
授業方法	講義			
評価方法	定期試験			
履修アドバイス				
担当教員(分担者)	川崎			

2023 こども保育リハビリ学科こども保育リハコース

シラバス

■授業科目	健康科学		
履修時期	前期	責任担当教員	瑞慶覧 健
単位	1単位	時間	15
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	・科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。 ① 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える。 ② 運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ 運動生理学 ③ 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める。 ④ 救命救急 救急措置についての知識と対処法、AEDの取り扱い方を学ぶ。		
授業内容	運動処方1 ⑤ 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ。 ⑥ 運動処方2 ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ。 ⑦ 健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る。 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ。		
教科書 参考文献	【教科書】 健康科学 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現・科目試験結果により判定		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	スポーツ（実技）		
履修時期	前期	責任担当教員	瑞慶 覧 健
単位	1単位	時間	15
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。 ・仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。 ・将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② バレーボール1 基本練習 ③ バレーボール2 応用練習 ④ バレーボール3 ゲーム・審判 ⑤ 体つくり運動、エアロビクス運動、ダンス ⑥ バドミントン1 基本練習 ⑦ バドミントン2 シングルスのゲーム ⑧ バドミントン3 ダブルスのゲーム ⑨ バスケットボール1 基本練習・応用練習 ⑩ バスケットボール2 ゲーム・審判 ⑪ 卓球1 基本練習 ⑫ 卓球2 シングルスのゲーム ⑬ 卓球3 ダブルスのゲーム ⑭ ニュースポーツを学ぶ（ティーボールなど） ⑮ ウォーキングとその効果について 		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 健康科学</p> <p>【参考文献】</p>		
授業方法	実技		
評価方法	受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	コミュニケーション論		
履修時期	前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	1. コミュニケーション論の基本的な概念や理論を理解する。 2. 現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えていたる社会的要因について理解し、幼児(保育)教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。 3. こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。		
授業内容	① コミュニケーションとは何か ② 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション ③ 領域「人間関係」 ④ 遊びの中で育つ人間関係 ⑤ 今日的な人間関係の課題（気になる子たちとの関わり） ⑥ 人間関係と取り巻く社会環境（少子高齢化、家族の変化） ⑦ 人間関係と取り巻く社会環境（身近な環境の変容） ⑧ 人間関係とこどもの生活（家庭や地域とのかかわりとこどもの発達） ⑨ グローバリゼーションについて（異文化コミュニケーション） ⑩ メディアの影響力（情報の読み取り方、発信の仕方） ⑪ コミュニケーション手段と実践（話す力） ⑫ コミュニケーション手段と実践（読む力、書く力） ⑬ コミュニケーション手段と実践（聞く力） ⑭ コミュニケーション手段と実践（障害がある方） ⑮ まとめ（プレゼンテーション、筆記試験）		
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】「人間関係論」（豊岡短期大学配本テキスト）		
授業方法	講義と実践		
評価方法	出席状況・授業態度・課題提出・試験結果を総合的に評価する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	憲法		
履修時期	後期	責任担当教員	玉城 義一
単位	2単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の全体像を理解できるようにする。 ・日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 憲法と立憲主義・日本憲法史 ② 日本国憲法の構成と基本原理 ③ 基本的人権の保障・包括的基本権と法の下の平等 ④ 精神的自由権 ⑤ 身体的自由権 ⑥ 経済的自由権 ⑦ 社会権 ⑧ 参政権と國務請求権 ⑨ 統治機構の基本原理 ⑩ 国会と立法権 ⑪ 内閣と行政権 ⑫ 裁判所と司法権 ⑬ 財政 ⑭ 地方自治 ⑮ 憲法改正 		
教科書 参考文献	<p>【教科書】憲法</p> <p>【参考文献】ポケット六法、デイリー六法、コンサイス六法など</p>		
授業方法	講義		
評価方法	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現・科目試験結果により判定し評価		
履修アドバイス 担当教員(分担者)			

■授業科目	オーラルコミュニケーション（英）		
履修時期	前期	責任担当教員	玉城 希望
単位	4単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必須
授業の目標	英語の基礎を理解し、現場でのさまざまな場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションや接客に使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。		
授業内容	① 英語の文法Ⅰ（動詞、形容詞、副詞） ② 英語の文法Ⅰ（比較、代名詞、疑問詞） ③ 英語の文法Ⅰ（進行形、完了形、受動態） ④ 英語の基礎構文Ⅰ（5文型） ⑤ 英語の基礎構文Ⅰ（就職語句） ⑥ 英語の基礎構文Ⅰ（接続詞、仮定法） ⑦ 入園準備 ⑧ 登園・降園 ⑨ 室内遊び ⑩ 外遊び ⑪ 健康・病気・けが ⑫ 運動・お散歩 ⑬ 食事 ⑭ 工作・お絵かき ⑮ おたより・行事		
教科書 参考文献	【教科書】 英語コミュニケーション（豊岡短期大学配本テキスト） 【参考文献】 新・保育の英語 森田和子著（三集社）		
授業方法	講義		
評価方法	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現・科目試験結果により判定し評価		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	オーラルコミュニケーション（英）		
履修時期	後期	責任担当教員	玉城 希望
単位	4単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必須
授業の目標	英語の基礎を理解し、現場でのさまざまな場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションや接客に使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。		
授業内容	① インバウンド接客の現状 ② 外国人に対する接遇ジェスチャーの違い ③ 基本フレーズ① ④ 基本フレーズ② ⑤ 接客英会話 基本のフレーズ ⑥ 接客英会話 飲食編 ⑦ 接客英会話 販売編 ⑧ 接客英会話 宿泊編 ⑨ 接客英会話 交通・案内 ⑩ 訪日外国人観光客の不満と解決すべき課題 おもてなしの心と苦情対応 ⑪ ロールプレイ① ⑫ ロールプレイ② ⑬ ロールプレイ③ ⑭ ロールプレイ④ ⑮ ロールプレイ⑤		
教科書 参考文献	【教科書】 英語コミュニケーション（豊岡短期大学配本テキスト） 【参考文献】 新・保育の英語 森田和子著（三集社）		
授業方法	講義		
評価方法	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現・科目試験結果により判定し評価		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	こどもの保健（選択）		
履修時期	後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び適切な対応について理解する。		
授業内容	① 子どもの心身の健康と保健の意義 ② 保健活動の意義 ③ 地域における保健活動と虐待防止 ④ 子どもの身体的発育・発達と保健 ⑤ 子どもの心身の健康状態 ⑥ 障害のある子どもへの対応 ⑦ 子どもの疾病の予防及び適切な対応 ⑧ 感染症対策 ⑨ 災害対策 ⑩ 事故防止・安全対策 ⑪ 健康及び安全管理の実施 ⑫ プライバシーの保護・守秘義務 ⑬ 保護者に対する子育て支援 ⑭ 地域の関係機関との連携 ⑮ 学生自身の振り返り（まとめ）		
教科書 参考文献	【教科書】 こどもの保健 （豊岡短期大学配本テキスト） 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	出席状況・授業態度・課題提出・試験結果を総合的に評価する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	子どもの食と栄養（選択）		
履修時期	前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	小児期における栄養や食生活の重要性を理解し、起こりやすい食行動上の問題を挙げ、その対応方法について考える。		
	① 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 ② 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 ③ ライフステージ毎の子どもの発育発達と食生活についての理解 ④ 子どもの食生活の現状と課題についての理解 ⑤ 食育実践の為の基礎知識 ⑥ 保育所食育指針及び食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備 ⑦ 特別な配慮を要する子どもへの対応		
授業内容			
教科書 参考文献	【教科書】 子どもの食と栄養 【参考文献】 配布資料		
授業方法	講義		
評価方法	出席状況・授業態度・課題提出・試験結果を総合的に評価する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	医療・福祉実習		
履修時期	通年（前期）	責任担当教員	
単位	4単位	時間	480
科目区分	実習	必選区分	必修
授業の目標	保育実習に必要な知識・技術を学び獲得する。 保育者としての意識。マナーを身につける。		
授業内容	① 保育所保育と施設保育 ② こども園見学・オリエンテーション ③ 保育実習の意義と目的を理解する ④ 保育園の一日の流れ ⑤ 保育所の職場構成と連携 ⑥ 保育士の役割と業務 ⑦ 実習の心構え 社会人のマナー・ほうれんそう ⑧ グループワーク ⑨ 実習の種類 ⑩ 保育教材の作成 ⑪ 新保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領（総則） ⑫ 保育所保育指針 保育の内容（0歳児） ⑬ 保育の実施に関して留意すること ⑭ 保育所保育指針 保育の内容（1歳児） ⑮ 子どものあそび（室内） ⑯ 保育所保育指針 保育の内容（2歳児） ⑰ 子どものあそび（屋外） ⑱ 保育所保育指針 保育の内容（3、4歳児） ⑲ 子どものあそび（製作） ⑳ 保育所保育指針 保育の内容（5歳児） ㉑ 子どものあそび（運動） ㉒ 緊急時の対応（ケガ、地震、津波、火災等） ㉓ 事故予防・マップ作り ㉔ プライバシーの保護と守秘義務 ㉕ 実習記録（日誌）の書き方 ㉖ 保育実習指導Ⅰ ㉗ 学びの観点と事後指導について		
教科書 参考文献	【参考文献】 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 【準備する物】 実習着		
授業方法	講義・実習		
評価方法	出席状況・実習態度等を総合的評価する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	保育実習Ⅰ（選択）		
履修時期	後期	責任担当教員	
単位	4単位	時間	160
科目区分	実習	必選区分	必修
授業の目標	<p>習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の倫理と実践の関係について習熟させる。</p>		
授業内容	<p>① オリエンテーション ② 観察実習 園の目的、人的環境を見学し、施設の実態を全体的に把握するとともに、さらに園の生活に参加して、乳幼児の実態を観察し、生活や遊びなど様々な場面における乳幼児の活動、子どもの表情、健康面からの顔色及び心理面的側面を理解すると同時に保育者を含めた職員の諸活動について理解する。 ③ 参加実習 実習担当クラスの中に入り、保育集団への参加そのものが主眼であり、保育活動へ積極的に入り込み指導担当者の意図を分けもち、その活動を助けながら、子どもの保育活動に直接関わり経験的に理解する。 自由遊びの小グループの中に入り一緒に遊びを展開したり、集団にとけ込めない園児をフォローしたりすることもあり、最小限の手伝いなども含む。 参加実習は実習生が主体的に責任をもって指導にあたるのではなく、指導</p> <p>④ 部分実習 指導案、指導計画をもとに実習生自ら主体的に実践学習をする。</p>		
教科書 参考文献	<p>【参考文献】</p> <p>【準備する物】 実習着</p>		
授業方法	講義・実習		
評価方法	出席状況・実習態度等を総合的評価する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

2023 こども保育リハビリ学科海洋コースシラバス

■授業科目	ビジネスマナー		
履修時期	通年（前期）	責任担当教員	豊里 文江
単位	4単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人に求められる実践的なマナーが身につく。 ・社会で求められる人物像を理解することで、自分の強み・弱みを発見できる。 ・マナーを身に付けることで、自信を持って発言・行動できるようになる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② ビジネス・マナーとコミュニケーションについて ③ マナーⅠ すべては第一印象から 自分を知る 挨拶 表情 身だしなみ ④ マナーⅡ 美しい立ち居振る舞い 接客対応の基本 ⑤ マナーⅢ 言葉遣いは心遣い 美しい日本語と敬語 ⑥ マナーⅣ ⑥ ビジネス・シーンでの電話対応① ⑦ マナーⅤ ⑦ ビジネス・シーンでの電話対応② ⑧ 聴き方トレーニング 「聞く」ことの重要性 ⑨ 話し方トレーニング 人前で「話す」こととは？ ⑩ ホスピタリティ研究Ⅰ 心を表現する - ビデオ視聴（予定） ⑪ ホスピタリティ研究Ⅱ ホスピタリティの重要性 ⑫ 組織とビジネスパーソンⅠ 「組織で働く」こととは？ ⑬ 組織とビジネスパーソンⅡ 社内のマナーとルール ⑭ 組織とビジネスパーソンⅢ 来客時の対応 ⑮ まとめ 試験 		
教科書 参考文献	【教科書】 適宜参考となる資料を配布する		
授業方法	課題発見・解決型授業		
評価方法	試験実施（60点）授業への積極的参加度（20点）課題への取り組み（20点）		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	ビジネスマナー		
履修時期	通年（後期）	責任担当教員	豊里 文江
単位	4単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人に求められる実践的なマナーが身につく。 ・社会で求められる人物像を理解することで、自分の強み・弱みを発見できる。 ・マナーを身に付けることで、自信を持って発言・行動できるようになる。 		
授業内容	<p>① スマートな自己紹介</p> <p>② ビジネスマナーの実践 ~対人援助サービスの専門職として~ 対人援助現場のマナー 高齢者・障害者・こどもとのラポール</p> <p>③ ビジネスマナーの実践 ~よき社会人を目指して~ 社会人としてのマナー 職場で求められるマナー 情報伝達のマナー</p> <p>④ IT時代のマナー SNS メール 個人情報保護法 情報リテラシー</p> <p>⑤ 言葉に関するマナー～音声表現～ 用語の選択 発音、発生 スピード あいづち マジックフレーズ 経緯の表現</p> <p>⑥ 言葉に関するマナー～文書表現～ 手紙のマナー 文書の約束 箇条書き 掲示のルール 差別語 不快語</p> <p>⑦ サービスの達人 サービスの概念とCS サービスの品質 接遇 ユーモア 他企業の事例</p> <p>⑧ マナープロトコル～国際人として～ 世界のマナーの歴史 異文化理解</p> <p>⑨ 服装のマナー パーティーマナー 贈り物マナー</p> <p>⑩ 食事のマナー 洋食</p> <p>⑪ 食事のマナー 和食</p> <p>⑫ 通過儀礼 しきたり</p> <p>⑬ 自己診断表作成 サービス実践 対人交流 電話対応 価値観 自分を理解する</p> <p>⑭ まとめと復習</p> <p>⑮ まとめと復習 試験</p>		
教科書参考文献	【教科書】 適宜参考となる資料を配布する		
授業方法	課題発見・解決型授業		
評価方法	試験実施（60点） 授業への積極的参加度（20点） 課題への取り組み（20点）		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	健康科学		
履修時期	前期	責任担当教員	瑞慶覧 健
単位	1単位	時間	15
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	·科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。		
授業内容	① 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える。		
	② 運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ		
	運動生理学 ③ 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める。		
	④ 救命救急 救急措置についての知識と対処法、AEDの取り扱い方を学ぶ。		
	運動処方1 ⑤ 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ。		
	⑥ 運動処方 2 ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ。		
	⑦ 健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る。 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ。		
教科書 参考文献	【教科書】 健康科学 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現・科目試験結果により判定		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	コミュニケーション論(人間関係論)		
履修時期	前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必修
授業の目標	1. コミュニケーション論の基本的な概念や理論を理解する。 2. 現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与える社会的要因について理解し、幼児(保育)教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。 3. 子どもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、子どもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。		
授業内容	① コミュニケーションとは何か ② 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション ③ 領域「人間関係」 ④ 遊びの中で育つ人間関係 ⑤ 今日的な人間関係の課題（気になる子たちとの関わり） ⑥ 人間関係と取り巻く社会環境（少子高齢化、家族の変化） ⑦ 人間関係と取り巻く社会環境（身近な環境の変容） ⑧ 人間関係と子どもの生活（家庭や地域とのかかわりと子どもの発達） ⑨ グローバリゼーションについて（異文化コミュニケーション） ⑩ メディアの影響力（情報の読み取り方、発信の仕方） ⑪ コミュニケーション手段と実践（話す力） ⑫ コミュニケーション手段と実践（読む力、書く力） ⑬ コミュニケーション手段と実践（聞く力） ⑭ コミュニケーション手段と実践（障害がある方） ⑮ まとめ（プレゼンテーション、筆記試験）		
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】「人間関係論」（豊岡短期大学配本テキスト）		
授業方法	講義と実践		
評価方法	出席状況・授業態度・課題提出・試験結果を総合的に評価する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	オーラルコミュニケーション（英）		
履修時期	前期	責任担当教員	玉城 希望
単位	4単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必須
授業の目標	英語の基礎を理解し、現場でのさまざまな場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションや接客に使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。		
授業内容	① 英語の文法Ⅰ（動詞、形容詞、副詞） ② 英語の文法Ⅰ（比較、代名詞、疑問詞） ③ 英語の文法Ⅰ（進行形、完了形、受動態） ④ 英語の基礎構文Ⅰ（5文型） ⑤ 英語の基礎構文Ⅰ（就職語句） ⑥ 英語の基礎構文Ⅰ（接続詞、仮定法） ⑦ 入園準備 ⑧ 登園・降園 ⑨ 室内遊び ⑩ 外遊び ⑪ 健康・病気・けが ⑫ 運動・お散歩 ⑬ 食事 ⑭ 工作・お絵かき ⑮ おたより・行事		
教科書 参考文献	【教科書】 英語コミュニケーション（豊岡短期大学配本テキスト） 【参考文献】 新・保育の英語 森田和子著（三集社）		
授業方法	講義		
評価方法	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現・科目試験結果により判定し評価		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	オーラルコミュニケーション（英）		
履修時期	後期	責任担当教員	玉城 希望
単位	4単位	時間	30
科目区分	教養分野	必選区分	必須
授業の目標	英語の基礎を理解し、現場でのさまざまな場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションや接客に使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。		
授業内容	① インバウンド接客の現状 ② コミュニケーションを楽しもう 完璧を捨てよう ③ 外国人に対する接遇ジェスチャーの違い ④ ～そうだったのか海外編～そこが変だよ日本編～ ⑤ 基本フレーズ① 挨拶 自己紹介 ⑥ 基本フレーズ② スモールトーク ひとことアプローチ あいづち 質問 別れの挨拶 ⑦ 接客英会話 基本のフレーズ ⑧ 接客英会話 飲食編 ⑨ 接客英会話 販売編 ⑩ 接客英会話 宿泊編 ⑪ 接客英会話 交通・案内 ⑫ 訪日外国人観光客の不満と解決すべき課題 ⑬ おもてなしの心と苦情対応 ⑭ ロールプレイ① ⑮ ロールプレイ② ⑯ ロールプレイ③ ⑰ ロールプレイ④ ⑱ ロールプレイ⑤		
教科書 参考文献	【教科書】 英語コミュニケーション（豊岡短期大学配本テキスト） 【参考文献】 新・保育の英語 森田和子著（三集社）		
授業方法	講義		
評価方法	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現・科目試験結果により判定し評価		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	自然環境論Ⅰ（海の知識）（環境論）		
履修時期	前期	責任担当教員	岡橋 拓海
単位	2単位	時間	30
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境について学ぶ。 ●自身の居るフィードを知り、その楽しみ方や危険性を考えられる様になる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 海について考える。 ② 潮汐とは？ ③ 流れ海の中で起こっている事。① ④ 流れ海の中で起こっている事。② ⑤ 波について知る。① ⑥ 波について知る。② ⑦ フィールドの観察 ⑧ 海の気象① ⑨ 海の気象② ⑩ 海の気象③ ⑪ 海の気象④ ⑫ 環境① ⑬ 環境② ⑭ まとめ ⑯ テスト 		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 海の気象がよくわかる本</p> <p>【参考文献】その他配布資料</p>		
授業方法	N4教室での講義・実際のフィールドを使用したフィールドワーク。		
評価方法	授業態度・提出物の内容・テスト等を元に総合的に判断する。		
注意事項			

■授業科目	自然環境理論		
履修時期	前期	責任担当教員	中川 清之・岡橋 拓海
単位	2単位	時間	30
科目区分	専門分野	必選区分	必須
授業の目標	①海洋環境について学び実習フィールドについて知る ②自然環境について学び現場でのリスクについて考える。		
授業内容	① フィールドについて考える① ② フィールドについて考える② ③ reiwa 3nenndo ④ 潮汐について知る② ⑤ 流れについて知る① ⑥ 流れについて知る② ⑦ 流れについて知る③ ⑧ 波とは？①（波の発生メカニズム） ⑨ 波とは？①（波について知る） ⑩ 海洋気象① ⑪ 海洋気象② ⑫ 海洋気象③ ⑬ 危険な場所① ⑭ 危険な場所② ⑮ テスト		
教科書 参考文献	【参考文献】・海の気象がよくわかる本・その他資料等は其の都度配布する。		
授業方法	教室での講義を主に必要に応じて現場での講義を行う。		
評価方法	出席状況・実習態度・その他を総合的に評価する。		
履修アドバイス	講義・実習内容等は天候諸事情により変更する場合もあるので掲示板を常にチェックする様に。		
担当教員/ 実務経験	岡橋拓海、		

■授業科目	医療・福祉実習		
履修時期	前期	責任担当教員	岡橋 拓海
単位	6単位	時間	240
科目区分	専門分野	必選区分	必須
授業の目標	①ヨットとは？・ヨットを乗りこなす。 ②SUPとは？SUPを乗りこなす。 ③児童ディサービス(ぎんばるの海)		
授業内容	① 海洋スポーツ① (ヨット①～⑯) ② 海洋スポーツ② (SUP/カヤック①～SUP/カヤック⑯) ③ 海洋スポーツ③ (沖縄伝統ハーリー等) ④ 施設実習 (ぎんばるの海実習)		
教科書 参考文献	【参考文献】講義資料等は必要に応じて其の都度配布する。		
授業方法	実習を主に必要に応じて講義等も行う。		
評価方法	出席状況・実習態度等を総合的評価する。		
履修アドバイス	講義・実習内容等は天候諸事情により変更する場合もあるので掲示板を常にチェックする様に。		
担当教員 (分担者)	岡橋 拓海		

■授業科目	マリン実習		
履修時期	通年（前期）	責任担当教員	岡橋 拓海
単位	5単位	時間	480
科目区分	実習	必選区分	必修
授業の目標	① SUP・カヤック・トレッキング等を通して、自然環境について実際に体験する。 ② 自然環境について学び現場でのリスクについて考える。 ③ こども達との関係性を構築し安全にマリンを楽しませる。		
授業内容	① 自身の使用するフィールド/アクティビティーの基本を理解する ② フィールドにおける危険を理解しリスクマネジメントを考える。 ③ アクティビティーとそれに使用する道具を知りリスクマネジメントを考える ④ 各アクティビティーを体験し自身の練度上げより安全に行えるようになる。 ⑤ こども園実習を行い子ども達を理解し子どもマリンリスクを考え安全に実施する為に、を考える。 ⑥ 子ども達との信頼関係の構築しマリンを行う。以上を目標に実習を行っていく。		
教科書 参考文献	【参考文献】講義資料等は其の都度配布する。		
授業方法	実習を主に必要に応じて講義を行う。		
評価方法	出席状況・実習態度・その他を総合的に評価する。		
履修アドバイス	講義・実習内容等は天候諸事情により変更する場合もあるので掲示板を常にチェックする様に。		
担当教員(分担者)			